690
2018年
1月発行

よろこびの泉

わたし（イエス・キリスト）が与える
水を飲む者はだれでも、
決して渇くことがありません。
わたしが与える水は、その人の
うちで泉となり、永遠の
いのちへの水がわき出ます。

新約聖書　ヨハネ4：14

喝　采 ～翼をいっぱい張って

春の告知

尼　谷（松　田）　義　雄

どんな子どもでも知っている
春が暖かく輝いて語り
告げていることを

生きなさい
伸びなさい
咲きなさい
望みなさい
新しい　やわらかな
心の芽を出しなさい
広い　広い　青空に
翼を　いっぱい張って
飛びあがりなさい

恐れずに
冒険せよ！

尼谷（松田）義雄　詩集「神讃歌」より

発行所　〒630-0266　奈良県生駒市門前町七―四〇　日本ミッション
電話〇七四三（七三）一七五四　振替口座〇〇九三〇―二六六四二番
発行人　フアベイ・D
編集人　日本ミッション編集部
印刷所　〒350-0303　埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
電話〇四九（二九六）〇七二七　新生宣教団印刷部
一年分　送料共　九〇〇円
定価　一部　一八円

＊この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。
これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

質問箱

問　過ぎ去った一年を振り返り、何一つ良いこともしないで、愚かな習慣に負けて過ごしてしまった自分に反省。今年こそ、心身ともに生まれ変わって、新たな人生のスタートを と願っています。心構えについて教えてください。

答　年頭に気持ちを改め、高い目標や理想をかかげるのは良いことだと思います。しかし長く続いた習慣や仕事に妨げられ、一日、二日と実行できないと、今日は仕方がない、明日からは……と自分に弁解し、そういうことが数回続くと、最初の決意や情熱も冷めて元のもくあみとなってしまいます。

ところが、良いことには無力でも、長く続いてきた悪い習慣（たとえば大食、飲酒、ギャンブル等）はなかなかやめられないのが、生まれながらの性質で、聖書はこの現実を「私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行っています。もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行っているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。」（ロマ7・19～20）と言っています。

人は誰でも自分を完全な人間だと思っていません。それどころか、不完全で、罪に対して無力で、頑固な性格を皆持っています。キリスト教ではこれを「原罪」と定義しています。この悪い行いへと突き動かす内心の罪は、自分で解決しようと強く決心したり体を打ちたたいて修行しても、あらゆる知識に通じても取り除くことはできないのです。時折、知識を極めた大学教授や有力な政治家が、破廉恥な罪を犯すのを私たちは見ます。

そこで神様は、罪のない神の御子（イエス・キリスト）をこの地上に誕生させ、御子は神の愛を示す生涯を歩んで、私たちに本当の神様を示され、最後に全人類の罪を背負って身代わりの十字架に死んで死の裁きを受け、三日目によみがえって救いを成し遂げられたのです。

このイエス・キリストの十字架の救いを信じて受け入れる人は、罪と死、悪習慣から解放され、生まれ変わって勝利の人生を歩み始めることが出来るのです。決意して教会においでになり、明るく希望に満ちた人生にお入りください。

（児玉　博之）

親と子のしあわせ 398

私が勤める幼稚園は、キリスト教に基ずく教育をしています。ですから毎朝みんなが出席する礼拝があって、讃美歌を歌いお祈りをします。お祈りは、年長の子が自分で考えていのります。

「神さま、○○くんの風邪がよくなりますように。」「発表会があります。みんながんばれますように。」など、その時の状況を祈ります。

Aちゃんのことです。隣りに住むおばあちゃんの家の老犬が死にました。家族はもちろん4歳のAちゃんも悲しみました。その時「園長先生にお祈りしてもらう。天国へ行けるように」と言ったそうです。休日でしたので、ご家族が「園長先生はお休みだから、Aちゃんがおいのりしてあげたら」というと、手を合わせて「神さま、天国に入れてあげて下さい。よろしくお願いします」と祈ってあげたそうです。ご家族みんなが悲しんでいる中、優しさを感じたとおばあちゃんが教えてくださいました。

あるときSちゃんが、2週間中国に帰省されていました。お休みが続いている時の礼拝で「神さま中国にいるSちゃんをお守りください」とお祈りしました。お休みしたお友だちのことを覚えて、誰から教えられなくてもおいのりをする姿に感動しました。

保護者の方から「先日食事をするときに、『神さまお食事を感謝します。世界中のお友だちにも与えてください』とお祈りして、びっくりしました」と言われました。園では、毎日、食前にお祈りをしているから家でもしたのです。感謝の祈りも身についていて本当に嬉しいことです。目に見えない神さまに、手を合わせて祈る姿には感動します。それも自分の幸せやお願いだけでなく、誰かのために祈ることは、素晴らしいと思います。この子たちが成長していくとき、いつか、辛く悲しいことに直面するかもしれません。そのとき、お祈りを思い出してほしいです。

「民よ。どんなときにも、神に信頼せよ。あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。神は、われらの避け所である。」

（詩編62・8）

この一年も子どもと共に、神さまにお祈りしながら過ごしていきたいと思います。

（相原　幸紀美）

I面写真：八木敏和氏

●質問箱への投書（100文字以内）よろこびの泉に関するお問い合わせは Izumi@japanmission.org まで

神の恵みが見える時
―大きな痛みが大いなる喜びに―

大阪市　石井　喜美子

「ふたりの子供だけは私に……」と願い、六歳と四歳の子供を連れて離婚した私は、心も身体もボロボロになっていました。死んでしまうのではないかと見かねた母親が、近所の人の家で開かれていた家庭集会へ連れていってくれたのです。

▲古希を祝って。息子、娘の家族と共に

私はお見合いによって結婚し、楽しい家庭を築きたいと願っていましたが、願いはかなわず、結婚して八年目に二人の子どもを連れて実家に帰ることになりました。離婚を願いましたが、夫の両親に反対され、夫は何も言ってくれず、私はただ苦しみから逃れたい一心で「二人の子供だけは私にください」と言い、六歳と四歳の子どもの手を引いて家を出ました。

今考えると、収入の道はなく蓄えもなし。なんと無謀なことをしたのかと思いますが、その時の私は身も心もボロボロになっていて何もできない状態でした。そのような私を見ていた母は、自分も求道者として出席するようになっていたキリスト教の家庭集会へ、連れて行ってくれたのです。後で母から聞いたことですが、このままでは、私が二人の子どもを連れて死んでしまうのではないかと心配したそうです。

その家庭集会で初めて牧師先生から聖書のお話をお聞きしました。「人間の罪、真の神様とは」など、私にはとても難しい内容と思いましたが、母に連れられ北大阪教会（日本イエス・キリスト教団）の礼拝へ、私も子どもと一緒に出席するようになり、四人での教会生活が始まりました。

礼拝で説教をお聞きするうちに、私は徐々に自分の罪がわかるようになりました。家庭がうまくいかなくなり、子どもたちを父親から離してしまったのは、

自分の辛抱が足りず

わがままだったのではないだろうか。もう少し我慢することは出来なかったのか等々、罪深い自分が見えて来ました。そして、そんな私の罪を赦すために、イエス・キリスト様は罪人の私の身代わりとして十字架にかかり、贖いの血を流して死んでくださったのだということが分かりました。それで先生のお導きを受けて神さまの前に自分の罪を言い表してお詫びし、イエス様を救い主と信じ、一九七七年四月一〇日、洗礼を受けました。私と子どもたちのことを心から心配し、イエス・キリスト様に出会うきっかけを作ってくれた母もまた、イエス様を信じてクリスチャンになり、九六歳で天に召されるまで神様とともに歩きました。

二人の子どもは、教会学校の幼稚科から小学科、中高生科、青年会へと成長。やがてそれぞれ洗礼の恵みに預かりました。収入の当てはなく、蓄えもなしの状態から、私は、教会の方のお世話で淀川キリスト教病院に就職することができ、退職の年までの二七年間働かせていただきました。病院では毎朝礼拝がもたれています。その礼拝に毎日出席し、聖書からのメッセージをお聞きし、苦しみや悩み、試練の時に、何度も平安と勇気が与えられたことは忘れられません。

神さまの豊かな備え

子供の成長とともに経済的に悩むこともありました。その時には聖書のマタイによる福音書六章二五節から三四節の所を読みました。特に「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」（33節～34節）を何度も読み、このみ言葉に頼って祈り続けました。それによって、神さまは、祈りが神さまのみこころならば、必ず叶えてくださるお方だと体験しました。

息子が大学進学の年、娘は看護学校へ通っていました。私は息子に「大学は自宅通学が出来るところで、国立を」と、無理な条件を出しました。しかし神さまはこの祈りを聞いてくださり、国立大学に入れていただけただけでなく、四年間、学費免除という待遇で学ばせてくださり、四年後、無事卒業させてくださいました。同年春、娘も看護学校を卒業。二人が同時に社会人になりました。

息子が卒業式を終えて帰ってきたとき、私の前に座って卒業証書を広げ、両手をついて「お母さん、今までありがとうございました」と頭を下げられた時には、もう胸がいっぱいで、私が育てたのではない、すべて神さまがしてくださったこと、そして教会の牧師夫妻を始め、教会学校の先生方、信徒の方々のお祈りのおかげと感謝で涙が止まりませんでした。また何よりも二人の子どもが一度も教会とイエス様から離れることなく成長してくれたことを、主に感謝せずにおれません。

子どもたちの結婚

二人が社会人になって安心した途端、二人の結婚が急に決まりました。どうしてこんなに早く私のもとから離れて行ってしまうのか、私はさびしくて呟いてしまいました。その時、この言葉が与えられました。「何事にも時があり　天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」（コヘレト3・1）。

三九年前、私たち親子はマイナスから出発しました。神さまとイエス様にお会いしていなかったらどんな人生だったでしょうか。罪深いこのような者をも、ここまで御手のうちにお守りくださった主に、ただ感謝申し上げるばかりです。今は日曜日ごとに息子夫婦と孫三人（皆、洗礼を受けています）とともに、同じ会堂で礼拝をささげ、信仰生活が守れています。このことは私の一番大きな感謝であり、何にも代えられない喜びです。更にこれからの祈りは、孫たちが、いつも、どんな時が来ても、イエス様と一緒に歩いて行ってくれることです。

娘とその家庭も守られて

娘は、クリスチャンではない人との結婚でしたが、主人も御両親も理解のある人で、やはり三人の子どもに恵まれ、医療の仕事に携わりながら生活をしていて、ときどき私たちのいる教会に来て一緒に礼拝を守ります。過日うれしいことがありました。娘の長女の結婚が決まり両家の顔合わせの時、娘の主人が挨拶に立ち開口一番、「うちはキリスト教です。」と言ってくれたというのです。その言葉に娘はびっくり。日頃は何も言ってくれなかったのに、こんな席できっぱりと宣言してくれ、私の信仰を認めてくれていたんだと感激したそうです。彼らが住んでいるのは奈良の田舎で、都会よりもキリスト教信仰が難しいところです。しかも予想も前触れもなかったところでのこの挨拶です。娘から聞いて私も驚き、感激いたしました。この娘婿の祝福のためにも毎日祈っています。

現在、私は一人暮らしで、さびしい時も不安な時もありますが「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主はそれをなしとげてくださる。」（詩37・5）　このみ言葉をにぎりしめて、毎日、主とともに歩み、神様が、私たち家族にどんなに良くしてくださったかを、周囲の人たちに証ししながら生きたいと願っています。

新年おめでとうございます。

年を重ねること…それは恵みの旅

藤崎　眞理子

年を重ねること
それは　神さまの恵みに出会う旅

凍える風が　吹きすさぶ
辛い道も通った

疲れ果てた私の上を
時さえも
冷たく過ぎて行った

だけど
少しずつ　分かってきた

自分だけの力で
生きてきたのではない

神さまの恵みに
生かされてきたことを